

2012 年度活動テーマ  
発酵食品で放射能に打ち克つ健康づくり。  
人々の協同で被災地復興と大地再生。  
**発酵と復興 2年目**

# COOP-JOSO News Letter

【ものづくり 人づくり 地域づくり】

二度と子どもたちを被ばくさせてはならない  
二度と大地と海の汚染を許さない

5/27 (日)

## 東海第2原発 運転差止訴訟 提訴前「決起集会」を開催

国と日本原電を相手に、「設置許可無効確認」と「運転差止請求」の訴訟をおこないます。この間、地元茨城県を中心に原告・賛同を募ってきましたが、この集会を皮切りに東京をはじめ関東一円に原告・賛同を拡大してゆきます。これまでに原告209名。そのうち88名が女性たち。弁護団は全国から66名の弁護士が参加。生協からは組合員・生産者・関係者57名が原告に参加しています。でも、まだ賛同者が全体でも228名。ぜひ賛同者になって訴訟を支えて下さい！ 二度と被ばくや汚染のない安心して暮らせる社会の実現に向けて！



「市民と科学者の内部被曝問題研究会」を立ち上げ原告に参加する土浦の生井兵治先生



「水俣が原点」と八郷の有機農家原告の魚住さん



（「原告」参加の締め切りは6月末までです）  
※原告に参加可能の方は生協までご連絡下さい



壇上に立ち「原発よりのちが大事」と訴える原告の女性たち

○東海第2原発運転差止訴訟「賛同」会員（年会費 1口 3,000円）を募ります！

（原告団事務局宛）東海第2原発運転差止訴訟団「賛同」会員になり応援します

（所属団体）常総生協      （氏名） \_\_\_\_\_

（住所）〒 \_\_\_\_\_      （tel） \_\_\_\_\_

（mail） \_\_\_\_\_      （会費） 口 \_\_\_\_\_ 円

（この申込書と年会費を封筒に入れてお申し込み下さい。追って原告団事務局より領収書、ならびに資料をお送りします。）

## 原告からの決意表明（1） 女性たちから

### 小張佐恵子さん

脱原発ネットワーク茨城  
代表世話人



土浦に在住しております小張佐恵子と申します。よろしくお願ひします。32年ほど前に結婚して東京から土浦の人間になりましたが、茨城という土地のすばらしさ、ここで子どもを育てられたということが幸せだなあと感じて生きてきて、ここでばあさんになりたいなあと感じていたところに原発事故が起きて、果たして子どもが結婚して孫を生めるだろうか・・・と。

3.11があつてすごく恐怖を感じてそれ以来署名活動をしたり学習会をしたり、仲間といっしょにやってきました、去年の7月に「脱原発ネットワーク茨城」を立ち上げて世話を引き受けて今日までやってまいりました。

今、ひとつ考えているのは、男社会がつくった典型的なシステムだなあと感じておりました、これを止めるのは女しかない、というふうに感じております。

今日の弁護団の中にも女性がいてくださって心強いですけれども、もっともついのちを大切に作る社会をつくるために女が頑張っていかなければならぬかなと、6月11日につくばで女性たちの交流会を予定しております。

先ほど弁護士の先生が「訴訟は有効な手段」とおっしゃっていましたが、絶対に止めなければ日本の未来はないわけですので、「有効」とかという話ではなく、「絶対に」止めましょう。それ以外にはないのです。

この間、知事さんとの会談に参加させて頂きましたが、この期に及んで「安全な原発は動かさなければ」などと知事さんがおっしゃった時、私は「安全な原発っていったいどこにあるんですか？」と思わず大きな声を出してしまいました。

もともと私は勉強したのが彫刻なんです、彫刻って石とか木とか金属とか、すべての素材についての勉強するんです。学生時代に溶接もしましたし、旋盤もしました。溶接ってすごく難しいんです。金属と金属を溶かしてくっつけていくので、うまくやったらつもりでもバラッとはずれたりして、それがどれほど難しいかわかっているんです。原発ってその配管だらけ、溶接だらけなわけですよ。

作っているときはともかくも、故障があった時、それを直すことが、高い線量の中で長い時間などできないと聞きますと、もうこんなに危ないものはないと、実感としてわかるんです。

たぶん政治家の人も、行政の人も、原子力安全保安院の人も、そんなことわからないんじゃないかなと思

うのです。

もうひとつもどかしいのは内部被ばくというものを政府が認めていないということ。子どものいのちがこんなに危険にさらされているということに、なんで男の人たちはこんなに鈍感なの！って、今そのもどかしさ、くやしさが身体じゅうにあるんです。

怒っていても仕方がないんですが、その実感をひとつひとつ説明してわかってもらえるようにしながら、この訴訟をたたかっていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

### 加藤理子さん

常総生協理事



龍ヶ崎市から参りました加藤理子と申します。常総生協の龍ヶ崎地区の理事をさせて頂いています。わたしは今回の福島第一原発の事故が起きるまで、そこで働く人たちが被ばくしなければ電気が生まれなくて、動かさばどんどん出てくる核のゴミの問題など、考えたこともありませんでした。

そしてひとたび事故が起きると、人間の手ではコントロールできないことを知りました。汚染された大地も元にもどすことはできないし、「被ばく」というリスクを抱えて生きなければいけないことも知りました。

そんな状況の中で国は被害の事実を隠そうとし、責任も追及せず、子どもたちに無用な被ばくを受け入れなければいけないことを押しつけてきました。

目には見えないし、感じない。自分の子どもだけは大丈夫なんじゃないか。将来子どもの身体に何が起こるのか、そんな恐ろしいことは考えたくない、知りたくない何度思ったことでしょう。わたしは自分が弱い人間だと知っているのに、途中で向き合うことをやめてしまうかもしれない・・・。

でも、逃げ出さずに向き合っていくためにも、原告団に手をあげました。

わたしは子育てする上で、自然の中で思いきり遊ぶ時間を大切にしてきました。裸ん坊でどろんこ遊び、水たまりで泳いだり、落葉をたくさん集めてプールにしたり、家庭菜園での野菜づくり・・・。

でもそれが今では危険なことになってしまいました。本当に悲しくてたまりません。

科学的なことはわかりません。でも、これ以上子どもたちに、汚れた大地、水、海を残してはいけな思ひます。よろしくお願ひします。

## 加藤由紀子さん

ひたちなか市  
「あたらしい風 いちから」



ひたちなか市の加藤由紀子と申します。福島第一原発事故のあとに放射能のことを心配するお母さんたちといっしょに「あたらしい風、いちから」という団体をつくって活動しております。

わたしはこれまで原発について考えたことがありませんでした。近くにある東海第2原発についても、その存在自体を疑ったことがありませんでした。

原発だけでなく、政治のこと、経済のこと、すべてにおいて、専門家の人たちがやってくれるだろうとおまかせにしてきたのです。

その無関心さのために、わたしは去年の3月15日、放射性物質が茨城方面に流れてきていたときに、3才だった娘を外に連れ出してしまいました。

親として、まだ判断能力のない娘を守ることができなかったことが、本当に悔やまれますが、そのことが、今のわた

しの原動力になっています。

福島第一原発事故を経験したことで、原発がどんなに危険な状態になっていても、市民に知らされる情報は限られていることや、もうすでに子どもたちの世代になっても処理しきれない放射性廃棄物がたくさんたまっていること、それが東海村にも保管されていることを知りました。

これは、わたしたち大人のほとんどが、今まで原発に無関心だったことの結果だと思っています。

やるべきことは、原発の再稼働をゆるさず、原発にたよらない社会をつくること、そのために市民ひとりひとりが声をあげつづけること、それが大人の責任だと思っています。

わたしは今やっと一歩を踏み出したばかりで、わからないことばかりですが、もうこれ以上、子どもたちの世代にリスクを負わせたくない、もうこれ以上子どもたちの環境を汚したくない、東海第2原発はもちろん、すべての原発をちょっとでも動かしたくない、という思いで、娘のために、子どもたちのために、微力ながらもがんばりたいと思っています。よろしくお願いします。

【催しのご案内】 手をつなごう！ 原発止めたい女たち！

## 6.11 さようなら原発 つくば交流会&パレード

【主催】 脱原発ネットワーク茨城 【共催】 常総生活協同組合 常陸24条の会

【日時】 6月11日（月） 10:00～

【会場】 イーアスホール（イーアスつくば2F707） TX 研究学園駅下車3分



ここ茨城で放射線被曝や原発事故から子ども達を守りたい

そんな一心で立ち上がり頑張っている個人や団体のママさんそして

それを後押ししてくれている先輩お母さん達との交流会をつくばで開催します。

同じ想いの人達が繋がり

子ども達の未来と笑顔の為に今後どうしたら良いのかを

みんなで知恵を出し合い気軽に話しあいましょう。男性の参加も大歓迎です。

午後は研究学園駅周辺で初めてのお散歩パレードを予定しています。

昼食はお弁当をお持ちいただいても、イーアスでお求め頂いても大丈夫です。

注文も可能（800円より 事前に生協までご連絡下さい）。飲み物・おやつは用意させていただきます。

【原発事故後の総代会『脱原発決議』から1年】

## 被ばくを経験した住民として、田畑海を汚染された生産者として 昨年の総代会での誓いを胸に



### 決 議 文



人々の協同と自立による復興と大地再生を誓い、  
核と原子力のない安心の社会に向けて

2011年春、東日本大震災と東電福島第一原子力発電所の事故は、私たちの暮らし・意識・社会を問い直すことを私たちに課しました。

わたしたちの健康は、「いのち育む食」を提供してくれた生産者のおかげです。これまでに感謝し、気持ちの支えも含めて被災と放射能汚染にあった生産者の復興・再生に具体的に協力し、共にこの困難を乗り越えていくことが地域の人たちの自立の連環につながり、格差や差別のない公正な日本社会、世界に連なることを願います。

生命の糧を育む大地と海の放射能汚染の除去・低減・再生を、生産者と共に取り組みます。この相互の努力こそが共に願ってきた「食の安全」への道です。

原子力発電は、生命や自然、食の安全とは共存できないと同時に、私たちの便利なくらしが他の犠牲の上に成り立っていたことをも気付かせました。

放射能汚染は「食の安全」を脅かし、消費者と生産者の信頼の絆さえも破壊して、人々を不安と苦渋に落とし入れました。

「安全神話」を推し進めた国の責任、当事者である電力会社の責任は最後まで問われますが、原子力発電に正面から向き合ってきた私たちの責任も免れません。

私たちは12年前、東海村JCO臨界事故の際「国のエネルギー政策の転換を求める声明」を決議していました。また、組合員からの六カ所核燃料再処理施設、上関原発への問題提起があったにもかかわらず、粘り強い運動にしてゆく努力を怠りました。

これ以上、次世代に禍根を残さないために「原子力に頼らない社会」をつくるために組合として、個人として、多くの市民とつながりながらできる行動を提案します。

まずは国がすべての原発を廃炉にすること、国・企業が放射性廃棄物処理も含めて責任を持って事故・事後処理、賠償を行うことを求めます。私たちの世代の責任において最後まで見届けなければなりません。

同時に私たちが、資源浪費の大量生産と消費のあり方を変え、何が本当に必要なものを判断し、具体的な運動・活動をすすめます。原発をなくしても私たちが安心して平和に暮らしてゆくために、多くの人々と協力し、暮らし・社会を変えてゆく具体的な行動を起こすことをここに決意します。

この決議を言葉に終わらせることなく、継続して努力することを誓い、全組合員に呼びかけます。

2011年6月11日 常総生活協同組合第38回総代会 参加者一同